

京図

きょうと

京都市図書館情報誌



ものがたり

関西から
文化力
POWER OF
CULTURE

親子でわらべうたをうたってみよう!

vol.25
平成23年3月発行

特集

OPEN YOUR BOOK AT PAGE 4,5 PLEASE



赤ちゃん絵本の会 (中央図書館)

京のわらべうた

あなたの好奇心に答える

目次

2 3 寄稿 「百人一首講話 (その四)」

京都百人一首・かるた研究会代表
京都アスニー「百人一首」とかるた講座専任講師 河田 久章

4 5 特集 京のわらべうた

6 図書館の特色紹介 久我のもり図書館

7 図書館小特集 植物園とのコラボレーション
本のもりの小さな音楽会

8 利用者の声 本の魅力

8 編集後記 私が想う京のわらべうた

百人一首講話 (その四)

河田久章

京都百人一首・かるた研究会代表
京都アスニ百人一首・かるた講座専任講師

「百人一首で京都を歩く」
〔文中ゴシック文字は全て百人一首歌人〕

京都市内は、百人一首歌人の生きたまちです。市内には、その縁りの地所がいたるところにあります。それを訪れることは、京都ならではの、京都でしか味わえない楽しみであります。

中央図書館が位置する上京区、中京区の丸太町、千本通、七本松通り一帯は、平安京開都の中心平安宮が造営されたところで、天皇が居住した「内裏」をはじめ、政治の中枢「二官八省」、国家的饗



●七殿五舎の一つ「昭陽舎」跡

宴の場であった豊楽院跡などを訪ねることが出来ます。「内裏」は百人一首選定の基となった平安時代に撰ばれた、八つの勅撰和歌集をその都度撰ぶ「和歌所」が置かれた場所でもありました。十四回にも及ぶ内裏の焼亡で、内裏外に移動せざるを得なかったこともあったようでしたが、この「和歌所」は、概ね、「後宮」(七殿五舎)と呼ばれた場所、皇后や中宮、更に側室の女御、更衣たちが起居し、そこにはそれらの貴女たちに仕える「女房」と云われた女官たちも同居していました。女房は百人一首女流歌人の小野小町、伊勢右近、清少納言、和泉式部、赤染衛門等に代表され、ここでは、和歌の宴や、歌合せ、歌会がしばしば催され、又、勅撰集撰の御下命が話題になっていた様です。このことは、百人一首が勅撰和歌集から撰ばれていることから考えますと、この

「内裏」「後宮」こそ百人一首発祥の地と云えなくもないのです。内裏の跡は上京区下立売通りから北、千本通りの東に、ほぼ確認され、これらの後宮の跡も説明板や、石碑で明示されています。饗宴の場、豊楽殿も京都市埋蔵文化財研究所により発掘調査が行われ、千年余前の姿が現われ、あの百人一首僧正遍昭の「天つ風 雲のかよい路 吹きとぢよ 乙女の姿 しばしとどめん」の歌がありありと思ひ浮んでくるのです。跡地は国の史跡に指定され、出土品は国の重要文化財となつて上京区西陣の京都考古資料館に展示されています。この西陣界隈は百人一首歌人縁りが多く、一条通大宮通り角は、藤原伊尹(謙徳公)の邸跡とされ、一条戻り橋あたりは、右大将道綱母の邸があったところ、小野小町の「雙紙水洗遺跡碑」も古の伝を残しています。千本通り、今出川沿には、藤原定家、寂蓮法師、家隆のゆかりを残す石像寺(釘拔地蔵)、引接寺(千本えんま堂)には、小野篁や紫式部の像や供養塔が、又、北野天満宮は云わずと知れた菅原道真が祀られています。予てから、百人一首誕生の地とされて来た右京区嵯峨は、どちら



●嵐山から嵯峨にかけて建ち並ぶ「百人一首碑」

かと云えば、選ばれた百人一首を染筆したところと思われ、その地所も定家が所有していた別業(別荘)の跡地として、三ヶ所(厭離庵、二尊院、常寂光寺)が目されていますが定かではありません。京都でも風光明媚なこの地は、和歌吟詠に格好な地であり、多くの百人一首歌人も歌にしており、地所巡りの最適な地と云え、平成十八年に完成した百人一首歌人の石碑群は、歌人の想いに馳せることが出来ます。大覚寺や清涼寺にも縁りがあります。

現在の御苑周辺も百人一首歌人の息吹を感じ、紀貫之や藤原公経、三条院、崇徳院、寺町通りから新京極通りにかけては、紫式部、藤原定家、和泉式部と続きます。二条通、押小路御池通り筋には、在原業平、周防内侍等が住んだ地所が伝えられています。

平安前期、嵯峨天皇皇子融が、源の臣籍に下り、嵯峨の清涼寺の前身棲霞観や、宇治の平等院と同じように拡大別荘を営んだ河原院跡が、下京区河原町五条にあり、五条通りは平安時には六条坊門小路と云い、この通りには、光孝天皇の釣殿があったことが推測され、ここで陽成院が天皇の皇女に恋をし、贈った歌が、筑波峯の峰より落つる みな川の 恋ぞつもりて 淵となりぬる「の百人一



●河原院は「源氏物語」六条院のモデルともされる

首の歌。中期には相模の居宅も六条坊門小路から北に入った東洞院筋にあり、一帯は桜の名所として夙に有名だったとか、毎年能因法師が勧童丸という童を伴って桜見物に高槻市の古曾部から来たことなど伝えられています。平安後期には、大江匡房が国の叡知を集め、何万冊からなる文庫を設置したとされる江家文庫の跡が、京都文化博物館により確認され、五条通鳥丸角には崇徳院の御所小六条殿跡も京都市埋蔵文化財研究所によって発掘確認されており、五条通西洞院を北上すると菅原道真の学問所「菅家廊下」があった紅梅殿、白梅殿の菅大臣神社があり、隣接して四条通角には、藤原公任の四條宮が歴史跡となり、更には小野小町の別宅と称し、小町の「化粧洗井戸」があったとされ、この地に建つ碑がゆかりを伝えていきます。

山科には、公園化された天智天皇陵や、小町の百夜通いの説話を残す随心院、三条右大臣藤原定方の生家を迎る勧修寺が、平安時代の面影を残しています。南区や伏見区には、院政期から平安末期栄華を尽した鳥羽離宮を中心とした遺跡や、後鳥羽院の終焉や西行法師の出家の逸話も感じることが出来ます。東山には、藤原時代の繁栄を成した百人一首歌人貞信公忠平や謙徳公伊尹、そして一大歌家を作り上げた藤原俊成、定家等が居とした法性寺界隈、その栄華を象徴した東福寺。塔頭最勝金剛院には法性寺入道関白太政大臣忠通、その孫、良経が眠っています。西京区の西山には、慈円の善峯寺、百人一首誕生に欠かせない色紙の染筆を所望した宇都宮頼綱縁りの三鈿寺、在原業平縁りの十輪寺、又、西行法師が出家剃髪の時、西行桜もあつて、多くの人の訪れを待っています。古歌に詠われ大伴家持も愛飲したという瀬和井の水は近くの大原野神社境内にあり、紀貫之や大江匡房も訪れていたという。左京区の貴船、鞍馬は和泉式部や清少納言の和歌や随筆に、大原には後鳥羽院、順徳院の陵があり、



●西山の十輪寺は通称「なりひら寺」と云われている

北区上賀茂神社には、歌枕の「ならの小川」。藤原家隆の「風そよぐ ならの小川の夕暮は みそぎぞなつの しるしなりける は晩夏を表わす、夏越の祓の歌でありました。

この他、京都にはまだまだ、百人一首縁りの地所があり、巡り歩くことによつて道筋にある百人一首以外の京都市内の名所・旧跡も楽しむことも云うまでもありません。

「百人一首で京都を歩く」の詳しいことは京都百人一首・かるた研究会にお問い合わせ下さい。

TEL・FAX 075-462-5165

基本編・わらべうたの分類

- ▼遊戯唄その一 手鞠唄・お手玉唄・羽根突唄など玩具を使用
- ▼子守唄 子守が子どもを寝かしつけながら歌う「眠らせ唄」や「遊ばせ唄」
- ▼天体気象の唄 風・雨・月・雪など自然界の天体気象に関する唄
- ▼動物植物の唄 雀・蝸牛・土筆など動物・植物に関する唄
- ▼歳時唄 正月・七草・盆などの年中行事に関する唄
- ▼遊戯唄その二 縄跳び・かくれんぼ・鬼遊び・手合わせ遊びなどの集合遊戯の唄
- ▼唄 え唄 かぞえ唄・願いごと・早口ことばなど

童謡という文字の初見は『日本書紀』とされており、古くはこれを「わざうた」と読んだそうです。

日本のわらべうたの源流であるといわれる京のわらべうた。

京都には、たくさんのわらべうたが伝承されてきました。千年もの間都であったという背景のせいも、洗練された歌詞や旋律が特徴で、都の生活様式と京言葉のもつまるやかなまりがもたらす独特の雰囲気があります。

子どもたちの生活や遊びの中で自然に生まれ、伝えられてきたわらべうた。親から子、子から孫へと口伝えに伝承されてきた、京都が誇る「京のわらべうた」を紹介します。



特集 京のわらべうた

子どもが初めて出会う文学

「雪やこんこ」のルーツは？

「雪やこんこ」
雪やこんこ あられやこんこ
お寺の柿の木に いっぱいつもれ こんこ

この歌は、文献のうえでは平安時代まで遡ります。「讃岐典侍日記」に幼少の鳥羽天皇が「ふれふれゆき」と口ずさまれたと書かれており、後の「徒然草」第百八十一段にもこのエピソードが記されています。

また、江戸時代前期の「一休ばなし」巻四では「雪やこんこ 霰やこんこ お寺の柿の木に 降りや 積もれこんこ」と詠われ、一休さんの頃からほとんど変化せずに伝承されています。

親子でふれあう「赤ちゃん絵本の会」

お母さんの歌つ子守唄やわらべうたは、幼い子どもにとって、とても心地よいものです。体がふれあい、柔らかな言葉と出会い、親子の繋がりを深めるものです。京都市図書館では、親子のふれあいの時間を持つためにも京のわらべうたを伝えていくこと、「赤ちゃん絵本の会」で、京のわらべうたを紹介していきます。



おすわりやすーいすどっせ



あんまりのったら こけまっせ

●「赤ちゃん絵本の会」の実施については、各館にお問い合わせ下さい。

歌って覚えよう！京の通り名

「丸竹夷」〔東西の通り名歌〕

- 丸竹夷 二押 御池
- 姉三 六角 蛸 錦
- 四綾 仏高松 万五条
- 雪駄 ちやらちやら 魚棚
- 六条三哲 とおりすぎ
- 七条こえれば 八 九条
- 十条 東寺で とどめさす



京都の人なら、一度は耳にしたことのある東西の通り名歌。通りを覚えやすいようにと歌にのみこんだわらべうたです。室町時代後に生まれ、江戸時代に普及したとされています。

「寺御幸」〔南北の通り名歌〕

- 寺御幸 麩屋 富柳 堺
- 高間 東車屋町
- 烏 両替室 衣
- 新町 釜座 西小川
- 醒井で 堀川の水
- 葦屋 猪黒 大宮へ
- 松 日暮に 智恵光院
- 浄福 千本 さては西陣



「京の通り名の歌」あいらす 児童合唱団唄/Kyoto Records 京都市図書館ではCDの貸出をしています！ 利用方法は各図書館まで

通り名歌を聴いてみたい！

火通要慎 わらべうたで「千日詣り」

「愛宕さんへまいって」

- 愛宕さんへまいって
- 細道通って
- 花いっぽんぬすんで
- 毛虫にさされて
- ほうぼうで目もろて
- 口惜しや 腹立ちや
- 音羽の滝や ところてん
- コチヨコチヨコチヨ



京都の人たちには親しみのある愛宕山。山頂には火難除けの神、愛宕神社があり、京都では、今でも台所に「火通要慎」の愛宕護符を貼っている家が少なくありません。そして、昔から京都では、三歳までに愛宕さんへおまいりする、一生火災の難をまぬがれるという「愛宕詣り」の風習がありました。「愛宕さんへまいって」は歌に合わせて頭、眉毛の間、鼻…と、親が幼い子どもの顔を手でさわるという親子のふれあいの遊びつたです。京都の子どもは、この遊びつたを歌ってもちょうこで、愛宕さんに親しみをもちつたつたです。また、顔を洗われるのを嫌がる子どもの顔を遊びながら拭いてあげるといふこともあったようです。

◆ 参考資料 ◆

『日本わらべ歌全集⑮京のわらべ歌』『うしろの正面』 高橋美智子著/柳原書店
『都の数えうた』 京都新聞社編/京都新聞社
『わらべうたー日本の伝承童謡一』 町田嘉章・浅野建二編/岩波書店
『子どもの遊びとうた』 小泉文夫著/草思社
『京都大事典』 佐和隆研ほか 編/淡交社
『京のわらべうた』 相馬大著/白川書院
『四季をつたえる「京」のうた・こころのうた』 森田照美子編著/ミヤオビパブリッシング



ご存知ですか？

「すてられて おもう思いの しげるをや
みをはづかしの もりというらん」

— これは、菅原道真が都を追われ大宰府へ行く際に詠んだ歌であり、そのゆかりの地に建てられた「北向見返天満宮（きたむきみかえりてんまんぐう）」が図書館の近くにあります。南へ下る道真が最後の別れを惜しみ、もう一度都の方角（北）を振り返って見たことに由来するそうです。

久我のもり図書館

伏見区久我東町216
☎934-2306

開館20周年

●より多くの方々との出会いを願って

開館20周年を機により多くの皆様にご来館いただきたいの思いから、多彩な記念事業を実施しました。特に、立命館大学落語研究会の方による「こがのもり寄席」は子どもから大人まで楽しめる本格的な企画となり、さらに、青少年科学センターから借りた「肉食恐竜ア



ロサウルスの頭蓋骨復元模型」の展示では、図書館の床に実物大の足跡を貼って恐竜の大きさを体感できるよう工夫し、来館者の注目を集めました。

また、図書館への愛着を深めていただきたいと願い、魚をモチーフにした「図書館キャラクター」

を職員がデザインして愛称を募集したところ、150件を超えるご応募をいただき、地元の小学生からご応募があった「こがと」と命名しました（「こが」=久我、「と」=図書館の「図」又は魚をいう幼児語の「とと」）。

より多くの方々に親しまれ、共に創る図書館の新たなスタートを切ることができたと思います。



●あらためて地域を知る

開館20周年の今年は、同時に地域の京都市編入60周年にあたります。開発が進み町並みが大きく変わっていく中でも、地域の方々の絆が広がり深まることを願い、「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」と共催し、昭和の初期から60年頃までの地元小学校や木造の羽束師

橋などの懐かしい写真17点をパネル展示しました。写真を見ながら、地域の方々から様々なお話を聞かせていただくことができ、私たち図書館職員にとっても、地域への理解を改めて深める貴重な機会となりました。

地域づくりを支える生涯学習の拠点



●地域情報コーナー

本だけでなく、生活に役立つ地域の情報を集め発信していくことも図書館の大切な役割と考え、当館では「地域情報コーナー」を設けて様々な情報を提供しています。「ふれあい朝市」や「子育て情報」など地元の情報はもとより、隣接する長岡京市や向日市の情報も随時加えながら充実させており、あなたに役立つ情報をきっと見つけていただけたと思います。

●地域と連携した出張事業

学校など地域の機関・団体と連携した出張事業を行っています。幼稚園への「図書館説明と読み聞かせ」や地藏盆への「出張読み聞かせ」など、お話の面白さや読書の楽しさを地域の子ども（親子）に伝える取組を通じて、地域の方々の様々な興味や関心呼び起こすとともに、それに応える図書館づくりに努めてまいります。



図書館と植物園との コラボレーション

1月8日(土) 京都府立植物園で、木をテーマにしたストーリーテリングやブックトーク、出前貸出しを行いました。

植物園では以前から、「私の好きな木」という事業が行われてきました。これは植物園内で自分が選んだ一本の本をスケッチなどをして親しみ、楽しみながら自然に木の知識を深めていくという、企画です。一年かけて六回行われるこの企画は、毎年小さな子ども達から年配の方まで、多くの方が参加されています。

そこで私たちは、自然と親しむその瞬間に、図書館が樹木や自然に関する本との出会いの場を提供させていただけないかと考えました。

本のなかには、私達の生活に関わるあらゆる事が詰まっています。実物に触れ、感じ、体験したそのときに、本に出会う。そうすることによってこれまでにはない本との出会いをしていただけるのではないかと考えたのです。

「私の好きな木」の第四回目の活動日である1月8日(土)、この日は図書館からも、自然や樹木の登場する本 100 冊余りを携えた職員数名が、参加させていただきました。

恒例のテーマソング「一本の樹」を全員で合唱した後、図書館職員が『魔法のオレンジの木』という昔ばなしを語りました。絵も無く、耳で聴くだけのストーリーテリングは初めて体験される方もおられたことと思いますが、魔法の木が登場する少し怖くて不思議なお話を全員で楽しみました。

続いて木に関する本を紹介するブックトークです。絵本の読み聞かせから、絵本に登場したドングリのできる木を調べることのできる図鑑、ドングリの食べ方の載っている本などを紹介しました。

その後、図書館が用意した本を自由に読んで頂き、図書館カードを

持ってきてくださった方には貸出しも行いました。植物園といういつもと違う環境での本選びは、いつもとは違うジャンルの本を手取る機会になったのではないのでしょうか。ストーリーテリングで語った物語の本やブックトークで紹介した本は、真っ先に貸し出されました。

本を選んだ後は、みなさんそれぞれの「私の好きな木」のところに、スケッチをしに行かれました。図書館と植物園が共に存在したのはごく限られた時間でしたが、今後このような機会が増えていけば、様々な読書、自然とのふれあいの可能性が無限に広がっていくのではないかと思います。この事業については来年度も実施する予定です。

京都市図書館は、これからも様々なかたちで資料を紹介していきたいと考えています。意外な場所で見かけましたら、ぜひお声をかけてください。

ブックトークとは??
特定のテーマに沿って
本を組み合わせて
紹介することです。



ストーリーテリングとは??
絵本や人形など道具を使わずに
お話を語ることです。



「本物の感動を、図書館で」

京都市中央図書館では、市民の方々に図書館に親しんでいただくための事業の一つとして、毎月1回「本のもりの小さな音楽会」を児童図書室で開催しています。この事業は、図書館に隣接している京都アスニー(京都市生涯学習総合センター)で毎月開催している「アスニーコンサート」の出演者の御厚意により開催されています。

出演者は、京都市交響楽団の首席奏者や音楽家など、第一線で活躍中のプロ奏者の方々です。15分間のミニコンサートですが、楽器の紹介から始まり、曲目も幼児から大人まで楽しんでいただけるよう、CMでよく耳にするクラシックの名曲やアニメの主題曲などを演奏していただいています。



日頃なかなか触れる機会が少ないクラシックの生演奏を、間近で気軽に、しかも無料で聴けるということもあり、毎回約100人

の聴衆の方々は、最後まで熱心に耳を傾けておられます。特に、子ども達は、目の前にあるハーブの豪華さに驚いたり、トランペットの大きな音に目を丸くしたり、アニメ曲と一緒に歌ったりと、とても楽しんでいただいています。図書館という身近な環境で、気負い無く本物の音楽に触れられる、プロの演奏を子ども達も自然に目と耳と心で楽しめる環境は、図書館ならではの環境ではないでしょうか。



図書館は「本」という情報だけでなく、生活を支える様々な情報を提供し続ける場でありたいと考えています。形には残らない生の演奏も、人の心を豊かにし、子ども達の成長に確かな力を与える情報です。

ぜひ、御家族皆さんで、本物の感動を図書館で体験してください。

◆ 南区 ペンネーム 自転車おじさん（無職）

私と本の関係は、初めはヒマつぶしでしたが、高齢者になった今では、本を吟味しながら、落ちてきた暗記力の回復に努めております。

今の世の中に欠けている「人を助けていく」という筋書きの本は、大変おもしろく感動するので、時間が経つのを忘れて読んでしまいます。読み終えたあとは気分が良く、1日爽快です。時代考証も多く出てきて勉強にもなります。

いつも、おもしろい本に出会えるように、心から祈っております。

◆ 左京区 匿名希望さん（主婦）

子供が幼稚園に通っていた時、図書館の「団体貸出」の仲間に誘われた。100冊ほど選び、それを10冊ずつ1セットにし、順々に回して読んだ。他の人が選んだ本との出会いもまた楽しい。子供の本の良さを知り仲間も得、さらに絵本の勉強会に参加することが楽しみの一つに加わった。団体貸出は一つのテーマの読み比べや勉強会の時など大変有利な利用法だ。返却方法も改善されて利用しやすくなった。

私達が積極的に図書館を利用することによって、本の魅力が深まることを信じたい。

◆ 左京区 巽 朋子さん

先日、家電店で電子書籍用端末を触ってみた。指の操作で簡単に文字サイズの変更や漢字の読み方や意味を調べることができる。2センチ弱の厚みで、分厚い本が何冊もおさまってしまう。紙も輸送費も要らないので、本も新聞も安く環境にも優しい。いいことづくめだが、何だか面白くない。やっぱり本は紙の厚みを手に、早く結末を知りたいと思いつつ終わるのが寂しい、という矛盾をかかえながらページをめくっていくのが至福の時である。

テーマ

本の魅力

あなたにとって本の魅力は何ですか。

利用者の
声

◆ 南区 赤塚 賢一さん（団体職員）

私たち家族は7年前に京都に引っ越してきました。図書館や本屋が近くて便利なのは魅力でした。長男は外出するにも鞆に本を1冊、どこにいても無人島の冒険に旅立ちます。

次男は映画好き、映画の続きを本で体験します。妻はマスコミで見た医療や健康を調べ実践します。私は家族で行く旅行や行楽を調べ行動します。家族にとって本の魅力は皆それぞれ違います。つまり、本は利用する人、目的によって様々な役割を果たすのです。だから私たち家族は本が大好きです。

◆ 右京区 藤井 忠司さん（無職）

本の魅力と云えば、先ず何時でも繰り返し見る事ができる利点、そして小説等ではその世界に浸れる楽しみ、その他専門書から趣味に至るまで、色々な本がありますが、それぞれがその道の先生でもあり、また心の糧ともなり、時には渴いた喉を潤してくれる清涼水のような働きをしてくれる事もあります。また誌上でゆっくり旅を楽しむ事もできます。取り分け図書館は知識の宝庫でもあり、あらゆるジャンルの師を気軽に請う事のできる施設かと思えます。

編集◆後◆記

「私が想う京のわらべうた」

「まるたけえびすにおしおいけ…」子どもの頃、三つ違いの姉が得意げに歌っているのを見て、「私も歌えるもん！」と、呪文のようにブツブツと繰り返して覚えたことを思い出しました。周りの大人や子ども同士の遊びの中で自然に覚えてきたわらべうた。京のわらべうたを京都の子どもたちに伝えていきたいと思えます。(O)

京都に住んだことのない私にとって、今回の特集はとても新鮮でした。編集するにあたって、通り名の歌や「愛宕詣」の風習について改めて知ることができ、また少し「京都」に近づけたような気がします。この機会に、通り名の歌を自然に口ずさめるようになれば、と思います。(F)

「雪やこんこ…」今年のはじめに思わず口ずさんだ方もあったのでは？今回わらべうたをいくつか調べていく中で、歌を通して遠い世界の人と思っていた人々が身近に感じられました。「丸竹夷…」ふるしき包みを抱えた丁稚さんがこの歌を唱えながら通りを駆けていったのかもかもしれません。通り名を覚えたら、次はその名の由来を…などなど、ぜひ図書館にお越しください。(H)

京図ものがたり vol.25

発行
平成 23 年 3 月

編集・発行

(公財) 京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町 9-2

TEL 075-802-3133

<http://www.kyotocitylib.jp/>

<http://www.kyotocitylib.jp/i/>



子どもを共に育む 京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、
行動の輪を広げましょう！